

八月になると毎年戦争に関する報道が増える。八月六日、広島での平和記念式典を見るとまたこの時期がやってきたんだな、とやはり心が少し落ち込んでしまう。

先日、家族でテレビを見ているとあるおばあさんの戦争体験の特集が放送されていた。その方は戦争中にお子さんを亡くされたそうだった。どうか我が身に代えてでも、と次々と爆発音が轟く戦火の中を怪我をした我が子をおぶり、死に物狂いで救護所を目指した。しかし、やっこの思いでたどり着いた救護所で彼女は救護員から衝撃的な事実を突きつけられる。彼女のお子さんは救護所に着く何時間も前には既に亡くなっていた。その救護員に告げられ初めて自分の背中に体温を感じないことに気が付いたのだ……と、ここまで見て私は気分が重くなり番組を変えてしまった。変えた後には何とも言えない罪悪感が残った。

今年で終戦から七十三年を迎えた。平成から令和に時代が大きく変わっていくと共に、戦争を実体験として記憶している世代はほとんどいなくなっている。恐らく私達が日本が経験した戦争を実体験として聞くことのできる最後の世代だろう。しかし、戦争を知ることはいさし、目を背けたくなることも多い。小学校の修学旅行で長崎を訪れた際に語り部さんから当時の様子を聞かせていただいたのだが、その日は一日中気分が上がらずお土産を買う気力も失せてしまった。先ほどまでワイワ

平和への連鎖

真和高等学校 1年

味園結璃

いと賑やかだった同級生も静まり返り多少のトラウマになってきているのだが、この感覚こそが大切だったんだと今になって思うようになった。とりわけ日本にしていると戦争を実感を持って意識できる人は殆どいないだろう。大切なものは失って初めて気付くとよく言うが平和がまさしくそれだと思う。毎日同じような、代わり映えない日常を退屈に思える事はとても贅沢で恵まれていることなのだと思う。この恵まれた状況を意識するためにはまずは戦争ときちんと向き合わなければいけない。ちゃんと知って、戦争は絶対にしてはいけない、起きて欲しくないという想いを人からではなく自ら持つことが必要だと思う。

また、家族、そして学校の友達、私に関わってくれる人を大事にしようと思う。私ができることは小さな小さなことだと思う。ただみんなが一番身近な人を大切に思うだけで、平和は実現されていくのではないだろうか。

「平和」というとても壮大なことに思えて何からすれば良いのか途方に暮れてしまふ。けれども、それぞれが身近な人の幸せを願うという素敵な当たり前の連鎖が繋がっていけば平和はすぐそこにあるものだと思うし、私はそう信じている。